

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：25201  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2009～2011  
 課題番号：21520572  
 研究課題名（和文） 二国間で英語と日本語のコンピュータを用いた学生の個人学習環境開発の研究  
 研究課題名（英文） Using Computer Mediated Communication (CMC) and Web 2.0 Technologies to Develop Students' Personal Learning Environments (PLE)  
 研究代表者  
 ヘネベリー スティーヴン (HENNEBERRY STEPHEN)  
 島根県立大学・総合政策学部・講師  
 研究者番号：30405477

研究成果の概要(和文):このプロジェクトにおいて、ネイティブの学生と交流することにより、学生が英語を使うことへの動機付けとなり、学生の興味、関心を高める成果をもたらした。互いの学生はブログ交流のなかで様々な異文化を共有することを楽しみ、日本とアメリカの文化的相違点を学び合った。

その中で直面した問題は、島根県立大学の学生の参加が増える一方でアメリカの学生の参加が減少したことであった。そのため3月にブログプロジェクトへの参加を募るべくアメリカ、カナダの7つの大学を訪問し、このうち3つの大学、(シアトル大学、バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学、ハワイ大学)が2012秋、より大規模となるブログプロジェクトに参加することとなった。

研究成果の概要(英文): The project was successful in increasing student interest in using English, as the interaction with the native peers was exciting and motivating. The students enjoyed sharing different cultural perspectives, and learned a lot about cultural differences between Japan and the USA. One problem faced was the increase in interest from students at the University of Shimane, and the declining number of participants from the American university. It was for this reason that in March I travelled to North America to try and invite other universities, with larger Japanese programs, to participate in the project. I was able to meet with seven universities in the USA and Canada. Of these seven universities, three universities (Seattle University, the University of British Columbia at Vancouver, and the University of Hawaii) agreed to join the cross-cultural blogging project. Each of these universities will participate in a larger scale version of the project in the Autumn of 2012.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：コンピュータ支援学習(CALL), e-ラーニング, Language Learning blogs, EFL blogs, 語学ブログ

### 1. 研究開始当初の背景

この研究の最初の目的はウェブ 2.0 を使用し、アメリカのネイティブの学生との交流を提供し、学生らがパーソナルな学習環境(PLE)を広げていくためのものであった。ネイティブの学生仲間とのブログ交流で英作文を書くことによって、それが動機づけの増加になるであろうということであった。さらに、学生が講義を終了した後も、教室以外の場所においても英語での活動を継続できること目指した。

### 2. 研究の目的

このプロジェクトの目的は、完全な正しい英文を書くのではなく、英語を書くことに慣れるということに焦点をおき、生涯の言語学習用の枠組みを確立することだった。

(1) 日本での英語教育は完全な文法がもとめられるため、学生は間違いを恐れ、英語で書いたりコミュニケーションすることを躊躇する傾向がある。

このプロジェクトの目的は正しい文法を書くことではなく、英語でコミュニケーションすることに焦点をおいている。

(2) 語学学習が英語課程で終わってしまうというのは残念ながら事実であり、それが完了した後も学生に言語学習を継続するツールを提供することがこのプロジェクト目的の一つでもあった。

### 3. 研究の方法

このプロジェクトは日本の大学の英語コースとアメリカの大学の日本語コースの2つのブログのグループによって実施された。

毎年秋学期に両国の学生は、自分が学習する言語で自分の大学のブロググループへ投稿する。(L2)

そしてもう一方のグループブログへ彼らが学習する言語でコメントする。(L1)

このように、両国の学生が外国語学習者として、また、ネイティブ言語の仲間としての役割を務めた。

アメリカと日本の大学の学期歴の違いにより、わずか8週間の交流となったが、その間、両学生はブログの投稿とコメントを毎週行った。投稿は、パーソナル、ローカル、カルチャーの3つのテーマより進められた。

(1) パーソナル：最初の段階で、自己紹介、家族や故郷などの話題を含め数回投稿。アメリカの学生との間でお互いを知る。(安全上の理由から、オンライン上での家族の名前やアドレスなど個人情報の公表に慎重さを警告)

(2) ローカル：それぞれの国の大学生生活に関する情報を共有しながら、より深い理解を目的とした。

私のクラブ活動、私の日常生活、私の大学のスケジュール、私のアルバイトなどを含む。

(3) カルチャー：最終段階は、学生が母国の文化についての意見やアイデアを共有する。これらの投稿で異文化の共有、理解により更なる自己啓発の手段となった。

ブログのコメントは、国際間の仲間の相互作用を評価するために収集された。アンケート

ートや学生のインタビューは、プロジェクトに対する学生の態度に関するデータ収集のために使用された。

#### 4. 研究成果

本プロジェクトは、アメリカのネイティブの学生との交流を通じ、日本の学生への自発的な動機づけを高める上で大きな成功を収めた。

本プロジェクトの主な結果の一つとして、双方の参加者の語学力レベルによる影響があった。ネイティブの学生による投稿(L2)を読み、語学学習への動機付けや語学発信の場が持てた。

長期学習への継続にはより長い交流が必要である。

(1) 本プロジェクトにおいて、アメリカの学生に比べ日本の学生は、定期的に投稿やコメントに参加した。これに対しアメリカの学生はよりコメントはあまりなく、長いブログ記事を投稿した。これはアメリカの教師がブログ記事を成績評価するためであると考えられる。

アメリカの学生は辞書や文法書を用いて時間をかけて長い記事を書くのに対し、コメントは容易ではなく、しばしば日本の学生からの熱心な応答に圧倒されたように思える。これは日本の学生が英語学習通算8年間に対し、アメリカの学生の日本語学習は3年間であり両学生の言語能力の違いがあった。

(2) またネイティブの学生によるブログ(L2)を読むことにより、日本の学生に対して自発的な動機付けをする効果があった。

学生はアメリカ人学生のブログを読み、日

本語文法の間違いを度々目にしながらも、しかし彼らの言いたいこと伝えたいことの内容を理解し、文法上の些細な間違いは大した問題ではない、完璧な文法にこだわることは必要ないことに気づくようになった。

(3) 過去3年間の実施でのグループブログでは、ネイティブの学生との交流に焦点を当てるため、クラスメイト同士がコメントすることは行われていなかった。しかし初年度の学生より毎週のブログ投稿課題の他に、課題以外の投稿およびコメントがしたいと要望があった。これはまさに自発的動機でありその解決方法として個人ブログが加えられた。個人ブログはさらに英語を使用できる場となり、クラスメイト同士が英語でコメントし合ったことで互いを知ることができ、講義での雰囲気もよくなった。

(4) このプロジェクトの最終的な観察は、日本とアメリカの学期暦の違いによって限られた短い期間では、長期的な学習を習慣付けするのに不十分だったが、個人ブログの開始は有用であった。

今後は年間を通し個人ブログの使用、さらに例年の文化交流実施を目指す。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計5件)

① □ヘネベリー スティーヴン

Cross-cultural Blogging Using Web 2.0, 島根県立大学 GP フォーラム, 2009年9月18日 (島根県立大学)

② □ヘネベリー スティーヴン

Cross-cultural Blogging, 異文化間語学研究会, 2010年6月26日 (島根県立大学)

- ③ ヘネベリー スティーヴン  
Commenting Strategies in an eTandem  
Blog Exchange, 全国語学教育学会  
JALT CALL 2011 年次大会, 2011 年 6  
月 5 日 (久留米大学)
- ④ ヘネベリー スティーヴン Commenting  
Behavior in a Foreign Language Blog  
Exchange, TESOL France Colloquium  
2011, Paris, 2011 年 11 月 4 日 (Télécom  
ParisTech)
- ⑤ ヘネベリー スティーヴン  
Incorporating Blogging Into Your  
Teaching, 島根県立大学公開講座, 2011  
年 11 月 24 日 (島根県立大学)

[その他]

Commenting Strategies in a Cross-cultural  
Blog Exchange, マンチェスター大学 M.A. 卒  
業論文、

ホームページ等

日本の大学生

一年目 <http://nashidai07.blogspot.com/>

二年目 <http://u-shimane.blogspot.com>

三年目 <http://u-shimane.blogspot.com>

米国の大学生

三年間 <http://unhjpn.blogspot.com/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

ヘネベリー スティーヴン (HENNEBERRY  
STEPHEN)

島根県立大学・総合政策学部・講師

研究者番号：30405477

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：